

福祉法人と住民が協力の『100円居酒屋』運営を視察研修

コミュニティ役員と女性部合同の視察研修を12月6日に行いました。

国東市安岐町朝来地区にあった小学校が平成20年に廃校、地元住民から「介護施設」として有効活用を要望され、翌年の1月に廃校の校舎内に小規模多機能型居宅介護事業所「朝来サポートセンター」が開設されました。

開設にあたり、「何か困っていることは？」「新しくできる施設に要望は？」「既存施設の鈴鳴荘への要望は？」この3点を住民に聞くと「人が集まる所に行きたい」「お酒の飲めるところがほしい」との声がありました。高齢者や若者、移住者も集まれる場所をつくれないかと思索し、「居酒屋」をオープンしました。

運営は、介護事業所

のスタッフだけでは維持が困難となり、地元住民の方に加勢をお願いして、現在の福祉法人と住民が協力して運営する『100円居酒屋』として営業百回を超えています（月1回第3土曜日開店）。笑いの絶えない憩いの場として一回も休むことなく継続しているのは、朝来地域の将来を住民目線で考えていることと、その思いに共感する49名のボランティア応援隊の協力が大きな



「100円居酒屋」の説明を受ける視察研修参加者

力になっています。

また、廃校になった当時より子どもが増えています。都会から地方に移って定住した『Iターン』家族の方々は、「空気もおいしい、食べ物もおいしい、人柄も優しい。一番は、子ども達が安全に過ごせる環境が素晴らしいのでここを選びました」と言い、『100円居酒屋』が高齢者の居場所だけでなく、Iターン家族を含めた住民相互のコミュニケーションの場としての役割を担い貢献しています。

玖珠地区も中学校統廃合に伴う跡地活用について、住民の皆さんと地域の将来を見据えた有効活用について協議するとともに、Iターン者を選んでいただける、魅力ある地域にしていきたいと感じました。

事務局 小野

手作りでおぼろ

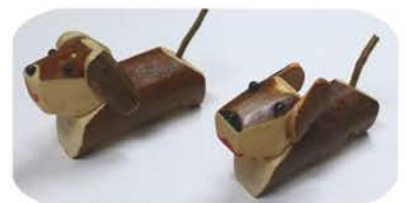
〜冬季工作教室〜

12月24日（日）玖珠地区育成協主催の冬季工作教室が開催され、参加者72名で、来年の干支（戌・犬）の置物を作りました。



指導者と作業をする子ども達

を塗る ⑥ニス
を塗る の作業
工程で2時間半
内に完成させる
ことができた
た。穴開けや、
ビスの取り付け
は、大人の方々の
力や技をいた
だきました。周りの人にも注意
を払い、汚さない、散らかさな
い、などに心がけました。
耳や尻尾は、いろいろな大き
さや形のものの中から頭部や胴
体に合うように選んだり、色付け
に工夫したりして、学びを新たに
することになったようです。
工作活動終了後には、おやじ
の会みなさんが腕を振るって
作ってくださいましたお替りのあ
るカレーと、プリンやスープを
いただいで昼食を楽しくするこ
とができました。



素材としたシャラノキ（沙羅の木）が乾燥していて、制約された時間の中では子どもには大変手ごわいので、予め切込みがされた部分（胴体・頭部・耳・尻尾）が用意されました。（各部分の切込みは小田の松野幸則さんに「助力をお願いしました。」）
刃物を使う工程を省き、①胴体を磨く ②胴体と頭部を接着する ③頭部と耳を接着する ④ビーズの目玉をつける ⑤色



カレーを調理をするおやじの会を皆さん

玖珠地区青少年健全育成協議会
事務局